

あつまれみんなの力作

中学校

中二
林 拓也
質実剛健



2年1組
林 拓也君

※『質』が難しく、全体のバランスに注意しながら何度も練習しました。

公平無私
鈴木初美



1年2組
鈴木初美さん

※『無』の点の位置に苦労しましたが、全体のバランスに注意して書きました。

奉仕の心
岩澤真純



1年1組
岩澤真純さん

※『奉』と他の字とのバランスを考えながら大きく、力強く書くよつに心がけました。

※『初志』は行書で「一文字なので、字のつながりや上下のバランスに注意しました。」
初志
伊藤康之



3年3組
伊藤康之君

人生の行路
高橋 孝行



3年2組
高橋孝行君

※行書は楷書とちがって少しくずして書くので、字のつながりに気をつけました。

熱い友情
椎名 恵美



2年3組
椎名恵美さん

※『熱』という字のバランスと点の位置が難しく、何度も練習をしました。

評者吟
金婚を迎える年の初湯なる

短評
椎名しげる

米消費上向く朗報初笑顔
大木 素風(二又)

小田原の城に鳩追う春着の子
土屋 義昭(虫生)

句を添えし友の賀状のなつかしき
大谷 武彦(木戸)

岬には火の跡ありて初日の出
鴨川 篤(尾垂)

子と交わす年酒に心鎮もりぬ
秋山 一泉(栢田)

「孫は目の中へ入れても痛くない」と言うが、曾孫の酌となればまた格別であろう。

四世代曾孫の酌で屠蘇をくみ
川島 孝夫(二又)

観光を兼ねた初詣の風習をよそに七十年、氏神様に初参賀する作者の郷土愛は尊い。

七十年村を離れず年迎う
川島 通則(二又)

初髪を結った孫娘の気恥しげな表情、それは慈しみ育てた作者の安堵と喜びでもある。

髪結うて初日まぶしむ子となれり
布施 和代(二又)

ひかり俳壇

